

IT-1 新技術活用の試行錯誤といかに向き合うか

13:10 SOA導入へのユーザーとベンダーの共同戦線

株式会社セガ 情報システム部 部長 松田雅幸
株式会社ユーフィット ソリューションコンサルティング部 入山秀樹

【セッション概要】 先進技術を活用するプロジェクトにおいては、通常よりも多くの試行錯誤やリスクが付きものである。このようなプロジェクトを成功裏に進めるためには、背景にある中期計画との整合性を意識しながら、絶えず、スコープの見直しを許容する柔軟性が不可欠となる。一方、プロジェクト実行中のスコープの見直しは、発注者側と受注者側の調整が必要となる。本セッションでは先進技術であるSOAを活用したプロジェクトを題材に、それぞれの立場からいかにして共同で取り組んだか、対談形式でお届けする。

【講演者略歴】 ●松田雅幸：東京大学教養学部教養学科卒。システム監査技術者。自社内情報システムの企画・設計・開発・導入・運用を広く手がける。
●入山秀樹：東京大学理学部情報科学科卒。PMP®。SOA案件を中心に活動。PM、J-SOX関連も手がける。

PA-1 夢(実現)と悪夢(回避)の経営戦略

13:10 夢プロジェクトに挑戦し、夢破壊者と戦う人のために

亜細亜大学・客員教授、
中央大学・客員講師 & 前・新潟県参与 川勝 良昭

【セッション概要】 世界同時不況と世界的激変に直面し、今何をすべきか？ 将来何をすべきか？ この問いに本講演をもって答えたい。本講演骨子は①太平洋戦争の日米戦略、②従来の経営戦略論、③夢(実現)と悪夢(回避)の経営戦略である。夢の経営戦略とは「夢工学」に準拠し、未知の事業領域で新技術と新市場の仮説を設定し、PMによって実現させる戦略をいう。悪夢の経営戦略とは「悪夢工学」に準拠し、戦略(夢)破壊者を如何に識別し、如何に排除するかを説いた戦略をいう。

【講演者略歴】 早大卒。新日鉄・技術協力部長、事業開発部長、セガ・テーマパーク事業部長、岐阜県理事(準三役)、新潟県参与を歴任。以前、岐阜聖徳学園大学、法政大学、東京大学、現在、亜細亜大学、中央大学、中国政法大学、新潟県立大学の客員教授、講師等。PMA J理事等。

EG-1 複合プロジェクトマネージメント

13:10 ベトナム最初の製油所&ジョイントベンチャー

日揮株式会社
取締役 牧野 幸博

【セッション概要】 2003年以降継続した資機材の高騰・現場労働力の払底などが一転、経済危機へと突入するなど相変わずビジネス環境は厳しく不安定である。一方、プロジェクト規模の大型化傾向は継続され、客先及びコントラクター両者にとって如何にリスクを回避するかという共通のテーマが立ちはだかっている。その解決策の一つとしてジョイントベンチャーを考える。アジア最後の市場と呼ばれるベトナムにおいて行われた最初の製油所建設プロジェクトを通し、プロジェクトマネージメントについての一考察を行う。

【講演者略歴】 慶応義塾大学工学部機械科修士課程卒、日揮株式会社に入社。主としてオイル&ガス分野の海外プロジェクトにエンジニア及びPMの立場にて従事。装置配管設計部長、エンジニアリング本部長を歴任し、第1プロジェクト本部長代行 現職。JGC-Vietnam 会長。

IT-2 セル型生産方式による人材育成

14:15 大規模MCシステムのプロジェクトチーム編成

富士通ミッションクリティカルシステムズ株式会社
取締役 石山 史朗、部長 佐藤 博之

【セッション概要】 大規模ミッションクリティカルシステムを高品質・高生産に開発するためSIの工業化に取り組んでいる。SIの工業化を実現するための「仕組み」、「プロセスの策定」と「組織能力の向上」の視点からセル型生産方式を導入した。当社の方式は、機能単位に専門知識を保有するセルを構築し、プロジェクト特性・規模・工程に応じ必要なスキルを持つメンバーを選出しプロジェクトチームを編成する。本講演では、セル型生産方式の実践によるSIの工業化と組織能力向上に向けた取り組みについて発表する。

【講演者略歴】 ●石山史朗：富士通ミッションクリティカルシステムズ(株) 取締役公共系、キャリア系のシステム開発PMを経て現職を務める。PMP®保有。
●佐藤博之：同上 基盤事業部 部長 公共系、金融ネット系のシステム開発PMを経て現職を務める。PMP®、PM/SM情報処理技術者。

PA-2 サステナブルプロジェクトマネジメント規範

14:15 最適性の原理に基づくバリューチェーン活動の提案

青山学院大学
客員研究員 梅田 富雄

【セッション概要】 持続可能な社会の構築に向けて、プロジェクトマネジメントを持続可能性(サステナビリティ)の視点からプロジェクトライフサイクル全般にわたるバリューチェーン活動を設定して、プロジェクトの目的を達成しながら同時に環境への然るべき対応をはかり、サステナビリティを実現するために、R.ベルマン提唱の最適性の原理に基づく多次元意思決定論を展開し、その結果を実践しやすい形として、「サステナビリティを志向しながらプロジェクトの運営にあたる行動指針」として示したい。

【講演者略歴】 昭和33年千代田化工建設入社。プロセスエンジニアリングの実践、研究後、平成元年筑波大学大学院教授、同6年千葉工業大学教授 PM学科設立に従事、社会システム学部長を経て、同15年定年退職。この間経営システムマネジメントに関する研究を実施、現在も継続中。

EG-2 新しい不動産/建設ビジネスにおけるP2Mの提案

14:15 環境不動産(ERE)/企業不動産(CRE)のP2M

日本工業大学 大学院 技術経営研究科
客員教授 太田 鋼治

【セッション概要】 低迷した建設/不動産業界の中、日本国内の企業が保有する法人所有不動産は590兆円とも言われる。新しい建設市場として、国交省は、この企業不動産(CRE)を価値の最大化を推進している。同様に、近年、環境に配慮した優良な建築・不動産ストックの価値向上を図る、環境不動産(ERE)の取り組みも推進している。本件は、これらの新しいマーケットにおける不動産/建設マネジメントについて、分かり易く説明するとともに、P2Mの観点からプロジェクトマネジメント手法を提案する。

【講演者略歴】 1979年芝浦工業大学大学院卒、同年大手建設入社。1989年ロンドン大学院卒。16年間シンガポール、英国の海外工事に従事。2000年より開発型建設プロジェクトなど国内次世代型の建設PM従事。日本工業大学MOT大学院客員教授、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理士。

IT-3 今まで普通に行われていた

15:35 コミュニケーション対策を疑う

ソニー株式会社 厚木テックB2BS事業本部品質保証部門
プロダクツクオリティ部QA1課 統括課長 森田 智幸

【セッション概要】 ITプロジェクトのマネジメントでは、コミュニケーションが重要である。実プロジェクトでのコミュニケーション問題を研究すると、実際にはコミュニケーションに起因する問題は殆どなく、設計問題や正しく無い方法論を使う事によって生じる問題が大半であった。これらの問題を深掘し整理した結果、問題を考える為のフレームを発見した。このフレームにしたがって、問題を考えた結果、今まで普通に行われていた行動にメスを入れると、本当に意味のある対策が立てられる事が明らかになった。

【講演者略歴】 1984年ソニー株式会社入社。情報機器事業本部にて、放送業務用VTR関連機器の量産品質管理を担当。1988年から放送局向けDigital VTR、HD VTR、HDカメラレコーダー、の品質保証業務を担当。2005年から担当事業領域の品質信頼性保証業務(評価系)の統括を担当。

PA-3 振子式車両の輸出における

15:35 プロジェクトマネジメントの実践とその要点

元 株式会社日立製作所 電機グループ 交通システム事業部
海外技術部 主任技師 安井 敏

【セッション概要】 P2Mによるプロジェクトマネジメントでは、受注後(システムモデル)のみならず、受注前から始めること(スキームモデル)、将来の運用も考えること(サービスモデル)、問題点の早期摘出のために知恵を働かせアクセントを付けた管理を目指すこと、等が重要である。鉄道の軌道曲線部をより高速で走行できる「振子式車両」の振り子制御システムを開発・実用化し、更に振子式特急電車を輸出してきた経験の中から、実践してきたプロジェクトマネジメントの要点を具体的事例を以て説明する。

【講演者略歴】 1974年(株)日立製作所入社。鉄道車両用各種制御装置・システムの開発・設計、鉄道車両の電気機装設計、輸出電車の取りまとめなどに従事。2007年から1年半(社)日本鉄道車輛工業会へ出向、2008年12月退職。現在フリーで海外の都市鉄道計画のFS調査などに参画。

EG-3 日本郵政グループにおける

15:35 不動産戦略への取り組み

日本郵政株式会社 不動産企画部
次長 齋藤 隆司

【セッション概要】 2007年(平成19年)10月に民営化したJP日本郵政グループ。全国に多くの不動産を有しており、その金額は約3兆円と日本でも有数の不動産を所有する会社である。歴史的建造物の再開発で注目を集めた東京中央郵便局の再整備計画に続き、大阪、名古屋と再開発を計画している。必ずしも経済環境が不安定な中、どうして日本郵政グループは不動産活用を行うのか、その戦略の一端をCRE戦略として、ご紹介するとともに、日本経済の活性化につなげようとする取り組みについて、ご説明したい。

【講演者略歴】 1986年 郵政省(現総務省)入省。1999年 人事院行政官在外研究員制度により、英レディング大学大学院客員研究員として英PFIを研究。2007年 郵政民営化に伴い日本郵政株式会社CRE部門担当部長へ就任。2008年 CRE部門次長 現在に至る。

IT-4 メンタルヘルス(心の健康)問題の現状と改善

16:40 気持ちよく働き成果を出す「脳力」を磨け!

日立公共システムエンジニアリング株式会社
ソリューション第一事業部 統括部長 前田 英行

【セッション概要】 プロジェクトマネジメントの使命は、「社員満足、顧客満足、会社満足のバランスが取れたプロジェクトの成功」に貢献することだと考える。これを脅かすリスクの一つとして、プロジェクトの現場では社員の心の健康(メンタルヘルス)に関する問題が大きくなっている。この問題を予防し、さらに社員が気持ちよく働き能力(脳力)を発揮することを目指す、「人間の脳の特性に基づくストレスバランス改善法」を紹介する。

【講演者略歴】 中央官庁、自治体など公共系システム開発のプロジェクトマネジャーを25年以上経験。プロジェクトマネジメント学会代議員、メンタルヘルス研究会主査。パートナーサティスファクション研究会、メンタルヘルス&キャリア研究会メンバ。PMP®、ITコーディネータ。

PA-4 宇宙国際プロジェクトのチーム運営手法

16:40 異文化を束ねるチーム運営のコツ

宇宙航空研究開発機構 プログラムマネージャ 長谷川 義幸
プロジェクトマネージャ 及川 幸揮

【セッション概要】 国際宇宙ステーションは、米ロを含めて世界15カ国が参加した大規模な国際共同事業で、日本の宇宙実験棟「きぼう」が取り付けられている。このプロジェクトは、国益をかけた先端技術の獲得と世界にリーダーシップを示す戦いの場であるが、搭乗員の安全を守るために国際チームのチームワークが必須条件になる。チーム運営は、コミュニケーション力、団結力および目標にチームをリードしてゆく力が必要である。本講演では、NASAと国際交渉しながら修得した異文化を束ねるチーム運営のコツに焦点をあて紹介する。

【講演者略歴】 ●長谷川義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。現在プログラマネージャ。
●及川幸揮：1980年宇宙開発事業団入社。2002年より日本実験棟開発に従事。2009年よりプロジェクトマネージャ。

EG-4 民間企業による公共事業の推進(PFI事業)の意義

16:40 羽田空港における国際航空貨物ターミナル事業の目指すところ

東京国際エアカーゴターミナル株式会社
常務取締役 兼 業務本部長 笠間 郁雄

【セッション概要】 2005年4月15日、国土交通省は羽田空港の再拡張・国際化にともなって必要となる国際線旅客ターミナル、貨物ターミナル、エプロン整備の3つの事業について、民間のノウハウを活用したPFI手法で実施する旨公表した。当時商社の立場でPFI事業に取り組んでいた三井物産は、旅客ターミナルと貨物ターミナル事業への入札に参加。最終的に貨物ターミナルについての事業権を獲得した。民間企業が大型公共事業を推進する意義、また今後の公共事業への民間企業のかかわり方について検証する。

【講演者略歴】 1983年三井物産(株)に入社し、海外向けのプロジェクト案件を担当。インドネシア、ロシア、カザフスタンの海外駐在を経て2005年9月に帰国し、羽田空港事業の入札段階から参画。現在 三井物産の設立した事業会社(現職)で事業推進中。